

歳入・歳出の計数のポイント（一般会計）

注：対前年度比は、全て平成18年度当初予算対比

**6月補正予算の規模は、202億円
平成19年度6月補正後予算は、対前年度当初予算の0.5%の減**

平成19年度6月補正予算は、「骨格予算」として編成した当初予算を同年ベースの予算とするため、202億円を計上

なお、平成19年度6月補正後の予算額は、平成18年度当初予算比0.5%減の6,893億円

ただし、平成18年度の特異要因である志摩開発有料道路 期無料開放負担金の減分（31億円）を除くと、ほぼ前年度並みを確保

（単位：億円、%）

	H19 補正後	H19 当初	H18	H17	H16	H15
当初予算額	6,893	6,690	6,928	6,980	7,004	7,049
対前年度比	0.5	3.4	0.7	0.3	0.6	7.6

**国庫支出金は、6月補正予算では、34億円を計上
平成19年度6月補正後予算は、対前年度当初予算の5.6%減**

国庫支出金は、6月補正において公共事業を同年ベースの予算とすることなどに伴い、34億円を計上

なお、補正後の国庫支出金は、平成18年度当初予算比5.6%減の738億円を計上

**県債は、6月補正予算では、114億円を計上
平成19年度6月補正後予算は、対前年度当初予算の17.5%増**

県債は、6月補正において公共事業を同年ベースの予算とすることなどに伴い、114億円を計上

なお、補正後の県債は、平成18年度当初予算比17.5%増の959億円を計上

参考

平成18年度最終補正後の県債予算額 908億円

**投資的経費は、6月補正予算では、172億円を計上
平成19年度6月補正後予算は、対前年度当初予算の8.7%減**

投資的経費は、6月補正において公共事業を通年ベースの予算とすることや老朽化の著しい警察署庁舎整備にかかる経費を計上することなどに伴い、172億円を計上

なお、6月補正後の投資的経費は、対前年度8.7%減の1,299億円で、そのうち、単独事業は、対前年度4.9%減の357億円

ただし、平成18年度で整備が完了した県営鈴鹿スポーツガーデン事業費や熊野古道センター整備事業費の減分を除くと、単独事業については、対前年度同額程度を確保

財源不足に対しては、基金の取り崩しにより対応

財政調整基金（一般分）は、平成19年度の事業執行及び危機管理対応に必要な額を残し、42億円を取り崩す